

一般社団法人
エリアマネジメント南山

平成28年度 活動報告



ご挨拶

理事長
森 俊勇

“何をしてくれるのかではなく、
自分がどのような活動をするのか？”

“エリアマネジメント”をインターネットで検索していただくと、定義や取組み事例などがヒットします。一般的には、良好な居住環境の形成や魅力あるまちづくりを、住民・事業者・地権者などによる民間が主体的に取り組む新しい活動であり、これらの活動を通じて地域全体の価値の向上と持続的な活性化を目的としており、ストックの有効活用、維持・管理・運営やイベント開催などを含むコミュニティづくりなどに取り組む活動の総称です。

そして、私たち「エリアマネジメント南山」は、「南山東部土地区画整理事業」で誕生する87haの新しいまちが、単に居住するだけではなく、稲城市民の新しい財産として、市民が親しみを持って接し・集い・交わり・遊ぶ活気あるまちに育つことをめざして、区画整理事業の地権者の代表などが発起人となって設立した一般社団法人（会員制の組織）です。平成21年度から3か年、国土交通省の「エリアマネジメント支援事業」の採択を受け、稲城市並びに南山東部土地区画整理組合の協力のもと準備を進め、平成28年度から本格的な活動を開始しました。

現在、工事中であることもあり、子どもたちが安心して遊べる公園がないことから、地権者の了解をいただき、「みんなの広場」を暫定的に開設する取り組みをしています。また、最大規模となる「奥畑谷戸公園」を含み、全体で約20haにも達する公園・緑地で里山の再生や、維持・管理への参画の可否を、野村不動産（株）が提供してくれた奥畑谷戸公園事務所（仮称）を拠点にして展開してみようと準備しているところです。

一方、焼き芋、梨狩り、里イモ掘りなどや、星空見学会、里山音楽会、昆虫探索会など、この南山に隣接する農家の方々などのご協力もいただいて交わりの場を設け、素晴らしい周辺環境にも接しながら、良好なコミュニティの形成に向けた取り組みも行ってきています。

この活動は民間による自主的・主体的取り組みを前提にしています。「エリアマネジメント南山」として何ができるのかは、今後、この組織（会員）がどのように成長していくのかにかかっています。会員の皆さんが主役です。

一般社団法人
エリアマネジメント南山

平成28年度 活動報告

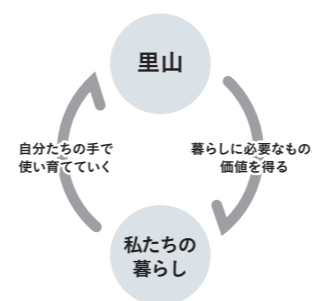
目次

ページ	
03	エリアマネジメント南山とは
07	南山のまちづくりの歴史
09	南山のちょっと先の未来
11	エリアマネジメントの活動紹介
	1. 土地活用事業
	2. 農業体験事業
	3. 緑化推進事業
	4. 里山再生事業
	5. 公園づくり支援事業
	6. コミュニティ形成事業
23	エリアマネジメント南山座談会
27	奥畑谷戸公園事務所について
29	活動に参加するには

南山のよりどころをつくる

2016年春、稲城に新しいまちが仲間入りしました。南山の区画整理によって生まれた稲城に暮らす私たちが関わりあいながら創っていく、新しいまちです。残された森やまちなかの緑は、自然豊かな稲城の宝もの。地権者・区画整理組合・市・住民とともに自然を守り育てながら、一緒にたのしくまちを創っていくこと。その活動の舞台をつくり支えていくことが、エリアマネジメント南山の役割です。南山や稲城で暮らす人をつなぎ、稲城の豊かな自然と日々の暮らしをつなぐ。そんな目標をかかげながら、地域の人たちの窓口となり、稲城の自然や暮らしを楽しむイベントの企画や、稲城の昔と今と未来を感じながら、地域に関わることができる、南山の“よりどころ”となる場を創造していきます。

里山とは・・・



生活に必要なものを手に入れるために、その地域で暮らす人たちが維持管理してきた2次的自然を「里山」と呼んでいます。畑をつくり野菜や果物を得て、木を植えて家を立てる建材にしたり、定期的に木や竹を間伐し、木炭や竹炭、カゴに加工をしたりして里山を利用していました。里山は、手を入れない自然よりも豊かな動植物の生態系がかたちづくられることもわかっており、私たちはその自然の仕組みによる恩恵を直接または間接的にも受けています。

しかし、電気・ガスを使う近代的な暮らしになり、山が放置され、荒廃が進んでいます。一方、温暖化など環境問題が身近になるなかで、安心・安全な食材を自らの手で育てたり、自然とのふれあいを求めている人、循環型の資源に目を向けたりする人も増えてきており、里山のもつ可能性に再び目が向き始めています。南山に残された斜面・緑地を里山として再生する取り組みをしたいと思えます。

エリアマネジメント南山の事業

※年度によって変わる場合があります。

- ① 土地活用事業**
土地活用の相談や里山コモンズ住宅のコーディネートやモデルづくり

南山の良好なまちづくりにむけて南山の地権者を対象にした勉強会の実施、里山コモンズ住宅建設への取り組みなどを行っています。
- ② 農業体験事業**
稲城の自然を味わい、親しむ企画の運営

稲城の良好な環境と自然の恵みに触れ合い、環境共生を体験する機会の創出をとおして、新しく創られるまち（南山）への愛着を育むための取り組みなどを行っています。
- ③ 緑化推進事業**
まちのみどりは自分たちで育てる暮らしにみどりを取り入れる

南山の里山に自生する樹の苗木を育成し、公園・緑地に植栽することにより自然を循環させ、南山の里山を、住民が主体となって再生させる取り組みや、ハーブ苑づくりなどを通じて、暮らしの中に身近な緑との関わりをつくります。
- ④ 里山再生事業**
木質バイオマスの普及を目指す

ペレットの製造を目指すとともにペレットストーブの普及啓発に取り組み、里山の資源を活用し、地域内循環型エネルギーの普及を進めます。
- ⑤ 公園づくり支援事業**
使いながら作る、自分たちの公園

公園の維持管理への市民参加を目標にした組織づくりと継続的な活動などに取り組んでいます。
- ⑥ コミュニティ形成事業**
コミュニティ活動のきっかけづくりと支援

地元自治会との連携（防災など）、子育て世代への周辺環境を通じた交流の機会の提供など、良好なコミュニティ形成のきっかけづくりを行っています。

活動アーカイブ

エリアマネジメント南山の活動の記録や広報

エリアマネジメント南山の活動を冊子やインターネットを通して広報し、記録を蓄積することで、これまで南山のまちづくりに関わってきた人の思いや、現在の活動を新たな住まい手や次の世代につなぎます。

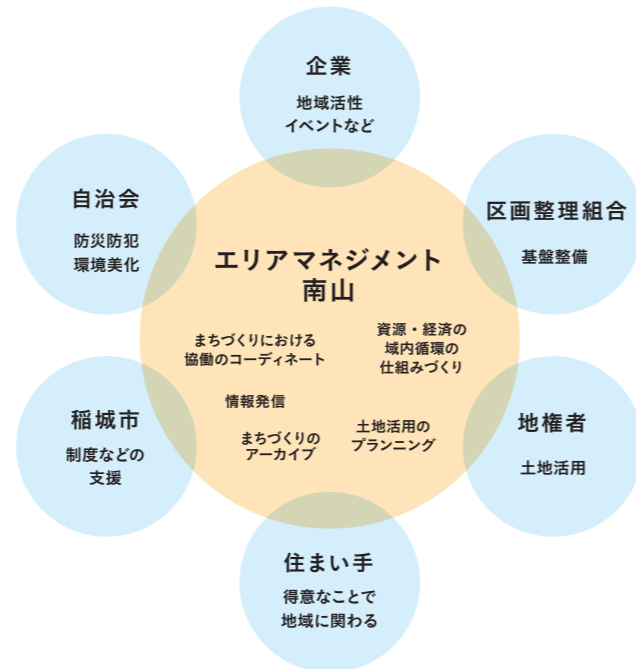
まちづくりの舞台をつくり支えていく

エリアマネジメント南山は、スカイテラス南山のまちづくりを関連団体と連携しながら進めていきます。

住まい手の多様なニーズに応えたり、地域の課題を解決していくためには、地域で活動する様々な団体の連携が必要で、それぞれの得意なことを活かしながらまちづくりを進める役割をエリアマネジメント南山は担っています。

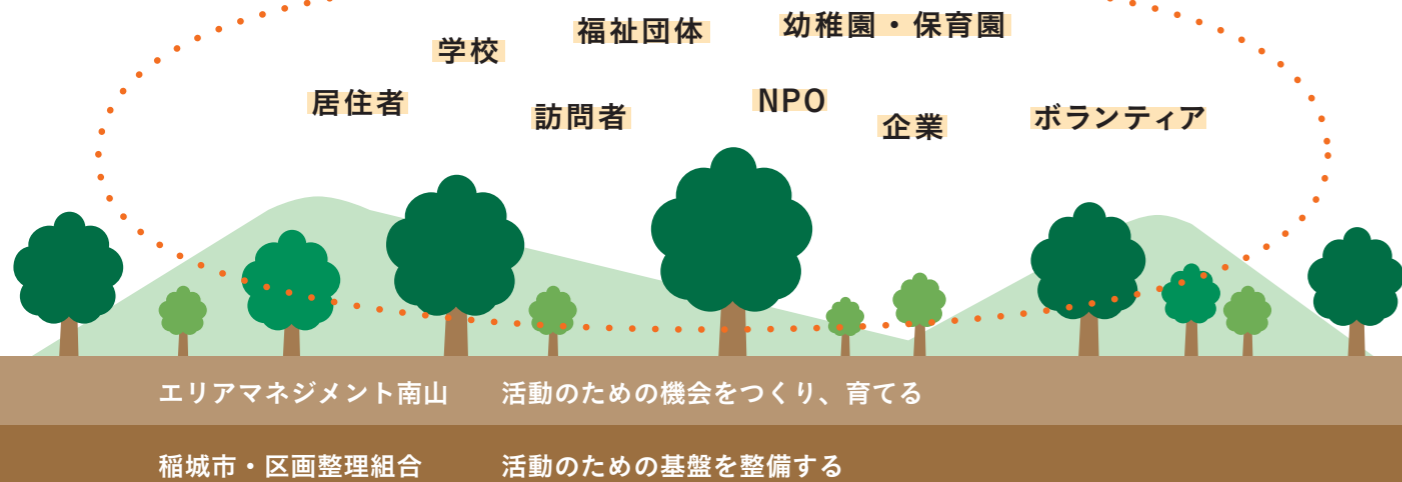
関係団体との連携

地域の関係団体と連携しながら、スカイテラス南山の資産価値・魅力の向上を目指して事業を推進します。

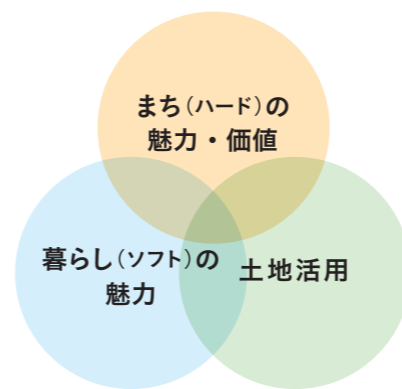


協働のイメージ

多様な住民・団体・訪問者の参加による多様な活動が生まれ、育まれる土壌をつくり、ともに活動を育てていく



活動の効果



住まい手にとって

お住まいの方にとっては、美しい街並み、安全な暮らし、このまちに住まうことへの誇りなど、南山ならではの魅力が充実します。

地権者にとって

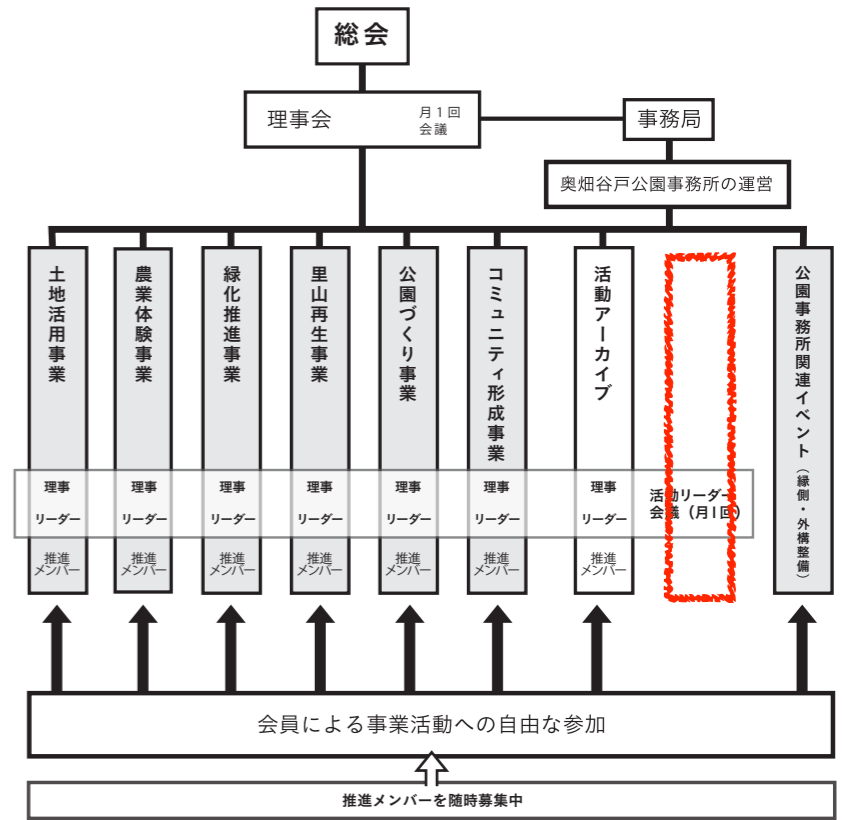
土地をお持ちの方にとっては、魅力あるまちで、付加価値の高い安定した土地活用が可能になり、資産価値の維持向上が期待できます。

事業者にとって

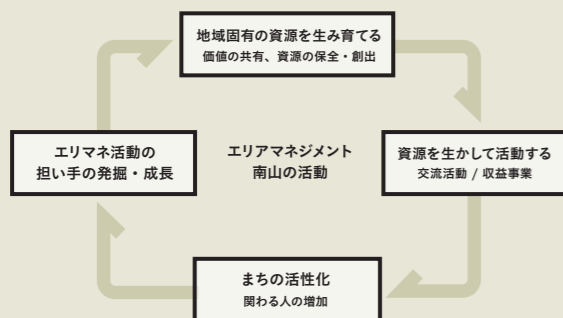
事業をされる方にとっては、集客やPRといった、地域コミュニティとの連携によって生まれる事業への相乗効果が期待できます。

組織構成図

理事、各事業部のリーダーを中心に活動を推進しています。活動への参加は、実施するイベントに参加するほか、参加したい事業部に所属して、継続的に活動の担い手の一人として参加することもできます。※事業への参加は、随時受け付けております。



エリアマネジメント南山の必要性



地域の資産価値や魅力の向上には、住民主体による自治的な活動に加えて、既存の枠組みを超えた連携を通じて、さまざまな地域資源を活かし特色あるまちづくりを進めること、そこから得た利益を地域に還元し、時間とともに魅力を増していく循環の仕組みづくりが必要です。具体的には、利用が未定の土地での苗木の育成・植樹、奥畑谷戸公園をはじめとする公園づくりの支援、奥畑谷戸公園事務所を拠点にした、里山の資源を活かした活動の企画運営など、かつての里山として暮らしを支えてきたこの土地の可能性を最大限に活かしたまちづくりに取り組みます。

また、現在、区画整理が進んでいるなかで、地域住民のニーズを把握し、必要なものに関しては実現していくことも役割の一つです。その一つとして、子どもの遊び場が少ないことをうけ、地権者の了承をいただき利用が未定の土地を広場として開放する取り組みもしています。南山のまちづくりにむけた住まう人の誰もが関わることのできる窓口として門戸をひらき、地域での活発な活動が生まれるきっかけをつくり、そのサポートをとおして誰もがイキイキと暮らせる地域を一緒に育てていきたいと考えています。



南山のまちづくりと市民活動の歴史

南山東部地区は1970年の市街化区域編入以来、様々な紆余曲折を経て2007年に土地区画整理組合設立が認可。現在も事業が進められています。ここでは、現在に至るまでの土地区画整理事業と、事業をめぐる様々な市民団体の活動の歴史について紹介します。

1970	南山東部土地区画整理事業	区画整理組合+市民（団体）	市民（団体）
1970	<p>1970 新都市計画法施行 南山一帯を含む三沢川右岸地域の市街化区域への編入が稲城市議会全会一致で可決される</p> <p>1976 稲城市長期総合計画において、南山地域について緑地保全などを考慮しながら、良好な環境を有する地域として開発を検討することとされる</p>		
1980	<p>1987 稲城市が土地区画整理事業調査 Aを実施基本構想案が公表される</p>		<p>1987 稲城の自然と子どもを守る会発足</p>
1990	<p>1991 稲城市第二次長期総合計画において、南山地区(144ha)について、組合施工土地区画整理事業の早期事業化に努めることとされる</p> <p>1993 南山東部土地区画整理組合設立準備会発足</p> <p>1998 環境影響評価調査開始</p>	<p>稲城の自然と子どもを守る会による区画整理事業計画の見直しを求める活動が活発化</p>	<p>1995 稲城の自然と子どもを守る会から基本構想案に対して計画案の見直しを求める陳情書名が稲城市議会に提出され趣旨採択</p>
2000	<p>2000 ●稲城市第三次長期総合計画において、組合施行土地区画整理事業の円滑な推進に向け支援していくこととされる ●環境影響評価書案の市民への説明会開催 ●環境影響評価書案に関する意見公聴会を東京都が開催</p>	<p>2001 南山の自然を守る会（以下「守る会」）が地権者や市議会議員も交えた「南山懇談会」を開催</p>	<p>2001 ●稲城の自然と子どもを守る会を発展的に改組し「南山の自然を守る会」発足 ●南山の自然を守る会から「南山東部地区における緑地保全に関する陳情」署名が稲城市議会に提出され趣旨採択 ●市民企画連続講座開始</p>

2010

2002	環境影響評価書公示・縦覧	この頃から、区画整理事業計画の見直しについて、組合と守る会による建設的な話し合いが始まる	2002	南山市民プランA～D案が発表される 2002年5月 ・稲城里山フォーラム開催 ・オオタカの営業が確認される
2002			<p>守る会と区画整理組合の話し合いの場が設けられる</p> <p>2003 組合と守る会によるオオタカの保全策検討開始。合同調査やモニタリングが始まる（現在も継続中）</p> <p>2006 ●組合と守る会による「保全エリア検討協議会」設立。里山 commons 住宅の実現に向けて双方協力する旨を定めた協議書締結 ●日本不動産学会+守る会+組合による「環境資産形成研究会（commons 研究会）」がスタート（全6回）</p>	<p>2003 いなぎ里山グリーンワークが里山保全活動を開始</p> <p>2004 南山の自然を守る会により里山 commons 案が発表される</p> <p>2005 ●いなぎ里山グリーンワークが NPO 法人格を取得 ●稲城の里山と史跡を守る会が発足、事業の見直しを求める活動を開始</p>
2006	南山東部土地区画整理組合設立認可		<p>2006 起工式</p>	
2006			<p>2006 ●組合と守る会による「保全エリア検討協議会」設立。里山 commons 住宅の実現に向けて双方協力する旨を定めた協議書締結 ●日本不動産学会+守る会+組合による「環境資産形成研究会（commons 研究会）」がスタート（全6回）</p>	
2008	第一回事業計画変更 奥畑谷戸公園隣接地に確保されていた水道施設用地を廃止、里山 commons 住宅を念頭に置いた「民有緑地」に変更	この頃、再び区画整理事業の見直しを求める一部市民団体の活動活発化する	<p>2007 環境資産形成研究会最終報告 ※その成果は採算性に難があるとして不採用</p> <p>2009 ●「自分たちのまちは自分たちで守り育てる」を実現するために、国土交通省、稲城市、組合の支援の下、エリアマネジメント南山の設立に向けた実践的活動を開始 ※南山の自然を守り育てる会、南ちゃんの会、いなぎ里山グリーンワークが協力 ●区画整理事業の見直しについて南山市民連絡会と組合による話し合いが始まる</p>	<p>2008 ●南ちゃんの会が里山保全活動を開始 ●南山問題市民連絡会が発足。「南山開発見直しを求める請願」陳情署名が稲城市議会に提出され不採択となる</p> <p>2009 ●南山の里山と史蹟を守る会から根方谷戸を中心とする東側工区を緑地などとして保全することを求める陳情が東京都議会に提出され不採択となる ●南山の自然を守る会が NPO 法人格を取得し「南山の自然を守り育てる会」に改称</p>
2010			<p>2010 南山問題市民連絡会から組合に対して6項目の要望書が提示される</p> <p>2011 全20回にわたる話し合いを経て、南山問題市民連絡会と組合による話し合いの成果が連名で公表される</p> <p>2012 第二回事業計画変更</p> <p>2013 第三回事業計画変更 ありがた山周辺の現況緑地～根方谷戸法面を公園に変更 農業の拠点として集合農地エリアを確保</p> <p>2014 第一期使用収益開始</p>	<p>2010 南山の自然を守り育てる会がコーポラティブ方式による里山 commons 住宅の実現に向けた自主的勉強会を開始</p> <p>2011 南ちゃんの会が NPO 法人格を取得し「里山プロジェクトみなみ」に改称。里山保全活動に加えて育苗事業を開始</p> <p>2012 南山の自然を守り育てる会がコーポラティブ方式による里山 commons 住宅の実現に向け参加者募集を開始</p>
2012			<p>2013 地権者有志により一般社団法人エリアマネジメント南山設立。組合、地権者、市民（団体）の協力を得て緑化事業を開始</p> <p>2014 エリアマネジメント南山が野村不動産の支援と市民（団体）の協力を得て「コミュニティ支援事業」を開始</p>	

里山の恵みが循環するまち、南山

南山のちょっと先の未来



奥畑谷戸公園

使いながら作る
自分たちの公園

猛禽類

炭焼き窯

展望デッキ

関東平野が一望!

植樹

どんぐりから育てた
苗木の植樹

農業体験

自然にふれ、味わう

自然散策

自然を知る・ふれる

里山の手入れ

心地いい環境を
維持する

奥畑谷戸公園事務所

エリアマネジメント南山の活動拠点

草木染め

里山の恵みを
楽しむ

苗木の育成

まちのみどりを
育てる

コミュニティ菜園

家族や仲間と野菜づくり

奥畑谷戸公園で駆け回る子どもたち、
休日にピクニックしている家族や
野菜づくりを楽しんだり、里山の手入れに動んだり、
このまちで暮らす人たちは里山やまちなかのみどりと親しんでいます。

奥畑谷戸公園事務所は、
里山とつながる地域の交流拠点として、
里山の恵みをいかした季節の手仕事をしたり、
自然にふれる機会が盛りだくさん。

これは、南山のまちの「ちょっと先の未来想像図」。
このまちに広がる「みどりと関わりあう豊かな暮らし」、
あなたも一緒にまちを育てていきませんか?



土地活用事業

地権者の土地や保留地を活かしてまちの資産価値向上へ

地権者の土地活用を支援

土地活用事業の概要

目的

地域の資産価値・魅力向上
良好な景観の形成

地権者の方々が自分の換地をどのように使うかは、地権者の方々の裁量に任せられます。自宅を新築される方。誰かに貸して賃料収入を得ようとされる方。あるいは住宅建設事業者や商業施設経営者に売られる方。様々な選択肢がありますが、不動産事業に精通している場合を除いて、ほとんどの地権者は不動産事業についての経験をお持ちではないこ

とが多いです。アパートを建設してみたものの、当初見込んだ家賃収入が期待できずに、結局、借金地獄という話はよく聞く話です。私たちは、まず地権者の方々の疑問や悩み事をお聞きする相談窓口を開設、相続や税金対策などの相談に応じたり、新たな土地の活用方策についてアドバイスを行っていこうと考えています。

そもそも区画整理って

馴染みのない言葉の「土地区画整理事業」。実は都市計画の母と呼ばれるくらい一般的なまちづくり事業です。震災復興、戦災復興に取り組みなければならなかった日本はドイツにその手法を学び、その後、日本のまちの多くはこの手法でつくられました。土地区画整理事業は、地権者の方々が道路や公園など新しいまちに必要な公共用地と、事業資金を捻出するために必要な保留地(ほりゅうち)を平等に出し合って進められ

ます。地権者の土地の元々あった場所の近くに換地(かんち)として返され、保留地の多くは民間事業者へ売却されます。民間事業者が住宅や商業施設などを建設して分譲したり賃貸したりします。スカイテラス南山の場合は、事業協力企業として野村不動産(株)が土地区画整理組合とパートナーシップ契約を結んでいて、まとまった保留地を優先的に購入、住宅を建設し分譲することになっています。

新たな住まいの提案

私たちが目指しているまち、それは、かつてこの地が里山として生き活きとしていた頃の暮らしの作法 = 自然を守り育てていく暮らしを現代に取り戻そうと言ってもいいかもしれません。私たちはそんなまちを実現するための多様な住まいや住まい方を提案、地権者の方々と一緒になって事業化に取り組み、南山の価値を高め、持続可能なまちにしていきたいと考えています。

身近に農のある暮らし

その一つが、身近に農のある暮らし。スカイテラス南山の内外に点在する農地で農家の方から手ほどきを受けながら野菜やハーブなどをみんなで育て、育った野菜をみんなで一緒にいただく。外周にはかつて里山には当たり前にあったクヌギやコナラなどの雑木が囲み優しい日陰を落としてくれる。あちこちで子どもたちの楽しそうな笑い声。そんな住まいを提案、実現できるといいなと考えています。



共に暮らす、共につくる

もう一つの住まい方はコレクティブハウス、コーポラティブハウスです。コレクティブハウスは、北欧発祥の住まい方。1970年代に生まれ、現在では北米などを中心に世界中に広まっています。少子高齢社会を迎え、家族の形や仕事のあり方が変わりつつある現在、暮らし方や住まいの在り方も多様化しています。コレクティブハウスは、それぞれが独立した専用の住居とみんなで使ういくつかの共用スペースを持ち、生活の一部をシェアする合理的な住まい方。自分や家族の生活は自立しつつも、血縁にこだわらず広く豊かな人間関係の中で暮らす住まいの形です。コーポラティブハウスは、理想の住まいを手に入れたいと考えている人たちが、建設組合を設立して一人では買えない広い土地を共同購入。みんなで画地割や街並みデザインを話し合いながら検討、それぞれの理想の住まいを建設しようとする住まいの作り方です。



事業 理事
担当 宇野 健一

エリアマネジメント南山理事。東京理科大学非常勤講師。本業は都市計画コンサルタント(有)アトリエU都市・地域空間計画室代表として多摩地域のまちづくりのほか、東日本大震災後女川や気仙沼の復興まちづくりに従事し、週末は地元サッカー協会副理事長、少年サッカーチームのコーチとして活動。島根県大田市生まれ。多摩市在住32年。(58歳)



農業体験事業

稲城の自然を味わい、親しむ企画の運営

稲城は自然に親しむ チャンスがたくさん

農業体験事業の概要

目的

自然に親しむ
住民同士の交流

稲城は、都心から至近な距離にあるにも関わらず自然が多く残るまちで、平野部では梨やぶどう農園が多く、丘陵部では四季折々の様々な野菜や果物が栽培されています。そして、エリアマネジメント南山は、地域の農家さんの協力を得て、そういった地域の自然と関わる機会を作っています。農業体験事業は、2015年度、2016年度ともに年に合わせて3回開催しています。

稲城・南山ならではの自然を活かし、気軽に参加できる交流イベントとして、開催してきました。市の特産である梨もぎ体験は、毎年すぐに定員いっぱいとなる人気のイベントとなっています。今後も、気軽に参加ができる交流イベントとして内容の充実を図りながら、継続的に開催していきたいと考えています。

これまでの開催実績

開催日時	実施内容	参加人数
2015年9月19日	梨もぎ	99人
2015年11月8日	里芋掘り	40人
2016年1月9日	焼き芋	41人
2016年6月18日	ジャガイモ掘り	25人
2016年9月17日	梨もぎ	70人
2017年2月12日	焼き芋	75人
		350人



めぐみの里山に驚いた

2016年6月18日
ジャガイモ掘りと梅もぎ体験

稲城駅から歩いて15分の里山、めぐみの里山に移動し、ここを管理されている NPO グリーンワークのスタッフにご指導を頂きながらジャガイモ掘りを楽しみました。収穫後は、川島(實)理事より、ジャガイモや里山、エリアマネジメントについてのお話。稲城市は市民活動が活発で「そういった活動にぜひ参加してみたい」というお話をいただき、解散しました。ジャガイモを3kg持ち帰るご家族もあったり、「これまでも市内に住んでいたけれど初めてめぐみの里山に来て驚いた」、という感想もありました。

午後の梅もぎは、3組と少人数での開催でしたが、じっくりお話をしながらの体験となりました。昨年の梨狩りや里芋掘りにも参加をされて楽しみにしていた、という方もいらっしゃいました。川島(實)理事より、「品種改良した梅で、種が小さい」と言った品種の説明、梅ジュース・ジャムの作り方を教わったり、帰りにラズベリーもその場で摘んで食べさせていただいたり、とても楽しんでいただけたようでした。



里山の中で焼き芋を楽しむ

2017年2月12日
焼き芋とどんぐり工作

サツマイモをホイルで包み、自分たちで焼く場所まで持って行きました。いなぎ里山グリーンワークの山田さんに焼いてもらいおいしく頂きました。焼き加減の見極めはなかなか難しいようです。遠くの都心の高層ビルを背景に、里山の中で芋を頬張る風景がとても印象的でした。

焼き芋が出来上がるまで、同日開催の木質ペレットふれあいフェスタを見学。ペレットストーブの燃焼展示を見学したり、スチールパンの演奏を楽しんだりして過ごしました。焼きあがった芋をいただいた後は、どんぐり工作を開催。枝とどんぐりで作る小さなブランコ、どんぐりの小さなオブジェなど、大人も真剣になりながら里山のなかでの工作を楽しみました。



事業
担当 事務局
井手 大

エリアマネジメント南山の事務局として、各活動における窓口のような役割や広報を担当しています。小さい頃から親しんでいた南山。「里山と関わりあう暮らしを、「自分のやってみたい!」が形にできる地域」を、一緒につくっていきたくと思っています。福岡の小さな町でのまちづくりの経験とデザインや写真の技術を活かして、南山以外にも地域の様々な活動に関わらせていただいています。稲城で育って26年(29歳)。



緑化推進事業

まちのみどりを育てる

まちのみどりを 自分の手で育てる

緑化推進事業の概要

目的

里山の再生
緑を通じた交流

新しくできたまちの緑化に協力し、稲城らしい里山の再生をめざして活動しています。具体的には、南山で取れたドングリを植え、クヌギ、コナラの幼木を育てています。よそから新しく樹木を持ってくるのではなく、「地域のなかで取れたどんぐりを地域のなかで育て緑化に利用していく」という「みどりの地産」が大切だと考えています。

幼木を育てている畑は、しばらく活用

の予定がない土地で、地権者の方からお借りしている場所です。この幼木をまちの中の緑地や、公園に植えて20年後、30年後、子どもたちに「いい森だね」と喜んでもらえたら目標達成です。また、ハーブ苑づくりなど、暮らしに緑を取り入れる楽しみも合わせて進めています。一緒に「まちのみどり」を育ていきませんか？

これまでの活動実績

開催日時	実施内容	参加人数
2016年11月12日	オリエンテーション	12人
2016年12月10日	幼木のポット苗移植	12人
2017年1月14日	広場の花植え	13人
		37人



南山を歩くのも初めて

2016年11月12日
オリエンテーションと里山散策

活動は月2回、第2土曜日と日曜日と決め、継続して活動することになりました。会員に声掛けさせていただき10名でスタートすることになりました。

まずは自己紹介から。「エリアマネジメント南山とは?」「緑化推進事業は何をするの?」などゆっくりミーティングを行いました。その後、「南山に足を踏み入れるのは初めて」という方も多かったので「めぐみの里山」まで散策しました。「めぐみの里山」を管理しているNPO法人いなぎ里山グリーンワークの代表、川島(實)さんから「里山とは生活に必要な物を植える所。南山のみどりは、住む人たちが必要なみどりを作っていくことが大切だ。」と、これからの里山のあり方についてお話を伺いました。



森になるのを待つ幼木たち

2016年12月~2017年1月
幼木の移植準備作業

12月、1月の活動は、畑で育てているクヌギ、コナラを掘り上げ、1本ずつ根を短く切り、いつでも森に移植できるようにポットに植え替える作業です。ポットに植え替えることによって、根が地にしっかりと根付くことを防ぐことができ、移植をするときの作業が簡単になります。大人の背丈より小さい苗木でも、掘り起こすのはなかなか大変。協力しながら、作業を進めていきます。南山のまちの緑地に必要な樹木の量は3万本。まだまだ苗木は必要です。ぜひ、まちの風景づくりに関わってください。たっぷり肥料と水をやり、春の芽吹きを待ちます。



事業
担当 緑化推進事業リーダー
和田 さつき

都内から稲城市に越してきて10年目になります。いつか森の手入れに関わりたいたいながらも機会がなく、息子家族が住む稲城に引っ越して、窓の外を見ると目の前に「里山!」。その2ヶ月後には「里山グリーンワーク」に参加していました。2008年に友人9名で里山保全活動グループ「南ちゃんの会」を立ち上げ、現在は「NPO法人里山プロジェクトみなみ」と改名して活動を続けています。



里山再生事業

雑木林を現代の暮らしに活かして里山を再生する

里山を再び現代の暮らしに

里山再生事業の概要

目的

里山の資源の活用
経済の域内循環の促進

これまでの活動実績

開催日時	実施内容	参加人数
2017年2月12日	木質ペレットふれあいフェスタ	約120人
		約120人

稲城をはじめ多摩地域の雑木林は、かつて薪や炭などを得るための場所、いわゆる薪炭林として農家の暮らしを支えてきました。つまり、一定の大きさに育ったクヌギやコナラなどの雑木は、薪や炭にするために伐って使われ、維持管理されてきました。木は伐ると「萌芽更新」といって、根元からまた新芽を出し枝を伸ばしていきます。しかし、これは1950年頃までの話でし

常緑広葉樹がすくすく育ち、クヌギ・コナラなどの落葉広葉樹を凌駕し、徐々に鬱蒼とした暗い森へと移り変わってしまいます。私たちエリアマネジメント南山は、こうした状況にどうしたら終止符が打て、様々な動植物が生き生きと共生する明るい里山が再生できるか考えました。その一つの答えが、かつて農家の方々が雑木林を暮らしに活かしてきたこと

た。高度経済成長と共に薪や炭は石油や電気にとって代わり、その役割を徐々に失っていきます。定期的に伐っていたクヌギ・コナラは放置され、どんどん大きく育ちます。地面に太陽の日があまり当たらなくなるので、それまで育っていたタマノカンアオイなど、かつて里山に当たり前のようにあった山野草はだんだん姿を消していきました。そして、日陰に強いシラカシやシイなどの

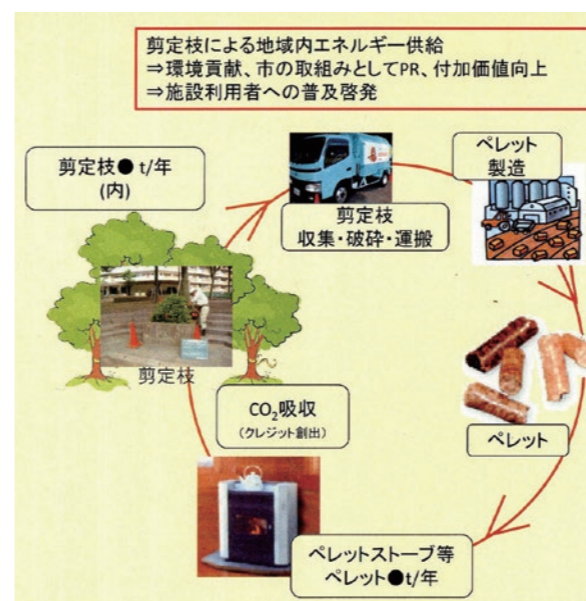
と同じように、現代の暮らしに雑木を活かせないだろうかということ。とはいっても、薪や炭で暮らしていた昔の暮らしに戻るわけにはいきません。そこで着目したのが、東日本大震災で大活躍したペレットストーブの燃料「木質ペレット」でした。間伐材などをチップにして小指大に固めたバイオマス燃料です。

木質ペレットを伝える

2017年2月12日
木質ペレットふれあいフェスタ 2017

私たちの活動の紹介と、木質ペレット及びペレットストーブの優しい暖かさとその効用を見て触れて感じてもらおうと、WPPC 一般社団法人木質ペレット推進協議会とペレットストーブの販売代理店「ペレットマン所沢」、稲城市の協力を得て開催しました。

ペレットストーブの燃焼展示のほか、ピザづくり体験、作ったピザをペレットピザ窯で焼いたり、ペレットグリル「キリンさん」によるコーヒーサービスなど、多くの人に木質ペレットの効用を堪能していただきました。私たちの活動は、まだ始まったばかりですが、小さく始めて大きく育てるをモットーに、木質ペレットの効果を広めて、ペレットストーブを普及、もって稲城の里山の保全再生に一役買いたい。そして将来的には、稲城の社会福祉法人と連携し、高齢者や知的障害者の就労支援にも役立ちたいと考えています。市民みんなが、できることに関わることによって地域が少しずつ豊かになる。私たちはそんなまちづくりに貢献できるといいなと考え活動しています。



ペレット製造へのチャレンジ

木質ペレットは、薪に比べて燃焼効率が非常に高く(90%超)、煙や灰がほとんど出ないのが特徴です。さらに固形燃料のため運搬も容易という優れ物。価格はほぼ灯油と同じか、少し安い程度。今まで有料で処分していた間伐材や剪定枝をペレットにして活用できれば、エネルギーの地産地消が進みます。エネルギーの地産地消というのは、今まで域外から購入していた電気や灯油の代わりに地元産の木質バイオマス燃料を使うことにより、経済の域内循環を促そうというものです。経済の域内循環を進めると、地域の価値をより高めていくことができます。

私たちは、ペレットを製造するペレタイザーを購入し、まず「奥畑谷戸公園事務所(仮称)」にあるペレットストーブが一冬に必要とする500kgのペレットの製造に取り組むことにしています。



事業 理事
担当 宇野 健一



使いながらつくる、みんなの公園 公園づくり支援事業

欲しい公園を 自分たちでつくる

公園づくり支援事業の概要

目的

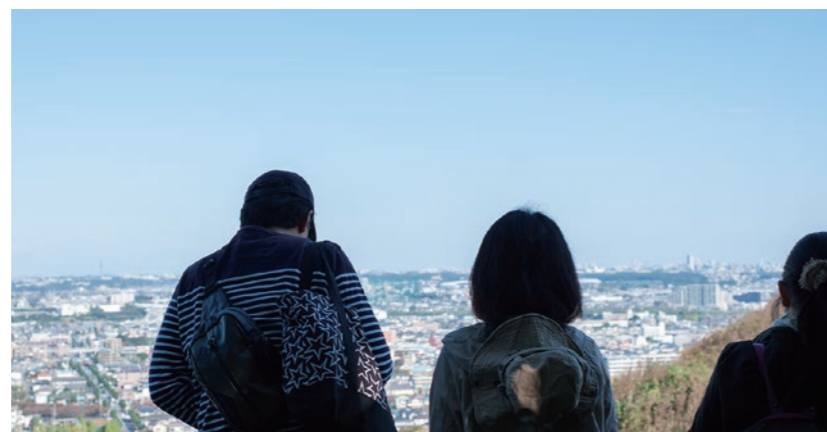
住民主体による
公園整備と維持管理

南山東部土地区画整理区域内にある公園について、里山の良さを残したうえで、希少種の保護を進めながら、市民から愛される公園づくりを目指します。市民参加の手づくりで建設費も最小限に抑えられるような公園とは、どのような公園なのかを住民参加型で考えながら作っていきます。現在進めているのは奥畑谷戸公園にあるシンボリック要素の強いウッドデッキの維持管理と、

その周辺の下草刈り。29年度からは同地域内にある竹林の整備をとおして、会員の皆様と一緒に公園づくりに励んでいきます。従来は行政が主体となり、都市型の公園づくりが実施されていましたが、エリアマネジメント南山のコンセプトである住民参加型による公園づくりを進め、他にはない稲城にしかない公園づくりを進めます。実現するのは決して夢ではありません。

これまでの活動実績

開催日時	実施内容	参加人数
2017年11月3日	展望デッキ整備 自然観察会	20人
		20人



ウッドデッキからの眺望に 感動

2016年11月3日
ウッドデッキのペンキ塗り

過去、4年以上前にエリアマネジメント事業の一環として、奥畑谷戸公園内にある一番の高台にウッドデッキを制作しました。しかしその後、具体的な活用方法が未定のまま年月だけが経過していました。その結果、ウッドデッキの周辺が草木で鬱蒼としていて、自然の再生能力について改めて驚きました。そこで今回の企画をとおしてウッドデッキを補修して、もう一度綺麗に蘇らせようということとなりました。

ウッドデッキの中央に位置していた大木も長年の風雨で倒れてしまい、やむを得ずチェーンソーで切断したり、ペンキの劣化が進んでいたことから改めてペンキ塗りを実施しました。あわせてその周辺の下草刈りの整備を行い、冒険心をくすぐるような当時の綺麗な憩いの場が再生されました。

参加した方からは、「こんな場所に、こんな素晴らしいウッドデッキが手づくりで作られたなんて」と驚き、ウッドデッキからの都心の高層郡を眺める風景も素晴らしいと、感動の声も聞くことができました。

また並行して実施された自然観察会において、稲城の自然の豊かさを実感し、地元の良さを理解してもらううえで有意義な活動となりました。



事業
担当 事業リーダー
梁川 貴司

南山の自然を守り育てる会(守る会)として法人会員として参加しています。守る会会員や、区画整理組合および調査協力会社の皆様と共に、南山に生息する希少種の保護活動を実施。稲城は東京近郊にあるにも関わらず自然豊かな土地。他市に対して自慢のできる宝物を持っていると思います。この宝物を継続的に守り育てていきたい。稲城在住14年。バイクを愛し、テニス・スキーなど長年にわたりアクティブに活動中。災害支援ボランティアにも所属しています。



コミュニティ形成支援事業

良質なコミュニティを広げていくための連携や交流の機会をつくる

交流のきっかけをつくる

コミュニティ形成支援事業の概要

目的

地元自治会との連携(防災など)交流のきっかけづくり

子育て事情や市内のお店や公共機関・施設の情報など、生活に必要な情報はもちろん、新しいまちでの暮らしは不安なことも多いはず。そういった不安を減らしたり、まちですれ違ったときに挨拶ができたり、ちょっとしたことで相談ができるなど、同じ地域に住む人同士、知り合いとなる機会があることが、住みよいまちの第一歩と考えます。

平成28年度は、スカイテラス南山の最初のまとまった転入者であるプラウドシティ南山にご入居されるご家族、そのなかでも特に多い子育て世代のご家族を主な対象に、交流会を実施しました。また、プラウドシティ南山の防災訓練の炊き出しの際の器を提供しました。地元自治会とも連携をしながら、安心して暮らせるまちづくりを進めていきたいと考えています。

これまでの開催実績

開催日時	実施内容	参加人数
2016年3月13日	子育て交流会	132人
2016年5月31日	子育て情報交換会	81人
2016年7月24日	まちびらき ウェルカムパーティ	約150人
2016年12月3日	クリスマス コンサート	約110人
		約473人



これから始まる、 稲城・南山の暮らし

2016年3月13日、5月31日
子育て交流会、情報交換会

平成28年度は、子育て世代のご家族が南山に多く引っ越されてきたこともあり、ご入居前後の不安を解消し、同じ地域に住む同士で知り合いとなる機会をつくることを目的に、子育て交流会・情報交換会を開催しました。

稲城在住のお母さん方の「稲城はたらくママの会」のメンバーにお越しいただき、子ども連れでも行きやすいお店といった、市内の情報をご紹介いただいたり、稲城市の子育て支援課の職員の方にお越しいただき、稲城市の制度や支援についてお話をいただきました。どちらの回でも、参加者同士で自己紹介する時間も用意しました。市内で公民館保育をされてきた方による紙芝居の読み聞かせも行い、楽しいひとときを過ごしました。



クリスマスの音楽会

2016年7月24日、12月3日
まちびらきウェルカムパーティ
クリスマスコンサート

プラウドシティ南山のご入居者向けの初年度イベントとして野村不動産(株)の提供のもと、実施しました。

7月には地元の農作物や加工品・パンの販売とコンサートを、12月には、クリスマスコンサートを企画。それぞれ、地元稲城にお住まいの方の協力を得ての開催となりました。どちらも多くの方にお越しいただき賑わいました。

クリスマスコンサートの後には、マンションのエントランスにクリスマスツリーを設置、マンションご入居者の方々と一緒に飾り付けをおこないました。クリスマスまでの期間、エントランスをささやかな光が彩りました。



事業
担当 事務局
井手 大

南山のまちづくりのこれまで、これからへの想い

活動と並行して、活動の記録や広報を担当しているアーカイブグループの主催で座談会をひらきました。エリアマネジメント南山の活動に協力をいただいている首都大学東京の川原教授の進行のもと、南山のまちづくりにかける想いを語り合いました。

活動グループの1年をふりかえる

川原：今日は、エリアマネジメント南山（以下、エリマネ）の理事のみなさんや活動グループのリーダーの方々に、現在の活動や南山まちづくりの将来への想いを語っていただきたいと思います。テーブルにはデザイナーの井手さんが作成してくれた、ここ1、2年の活動のチラシや、記録写真があります。いろいろやりましたねー。まずは井手さん、今年1年、エリマネ事務局として様々な活動を支えてきたと思いますが、一番印象深いのはどの活動ですか？

井手：この1年、本地区で最初のまとまった入居者であるプラウドシティ南山に入居された方々を対象に、住む人同士が知り合うきっかけになる活動をやってきました。その中でも「これからみんなで一緒になってやっていくのだなあ」という実感ができたのが緑化事業ですね。

地元のどんぐり拾いから始める里山再生

川原：緑化事業といえば、和田さん。

和田：今は工事中で、はげ山になっているところに、新しく木を植えて里山を再生するために活動しています。地元で取れたどんぐりを拾い、これを畑で育てて今年で3年目。苗がだいぶ大きくなったので、1本ずつポットに入れ替え、植樹できる場所の準備が整ったらみんなで移植しようと楽しみにしております。

川原：普段は何人ぐらいで活動されていますか？

和田：最初は、1人で野村不動産のモデルルーム前の畑を使って、水やりや肥料をあげてましたが、1人では継続できないので、仲間を増やしたいと考えました。まずはエリマネの会員さん

に声をかけていただいて仲間を募ったら、10数名も集まった。プラウドシティ南山以外の方もいらっしゃいます。月2回の活動日を設けて始めたので、これで継続できると期待しています。

川原：定期的な活動が始まったのはすばらしいですね。

森：植樹用の苗を買うこともできるけど、南山では、地元で取れたどんぐりから育てて、同じ遺伝子で里山を再生することに大きな意義があると考えてきました。この趣旨に賛同していただいた方が育ててくれているんですね。和田さんを中心に、暑い日も水やりや草むしりをして育てた苗が斜面緑地に植樹される。この取り組みこそがエリマネ活動の大きな柱だと思います。

川原：我々の中では、マンションの皆さんとは、井手さんが一番顔を合わせていますね？こうした、様々なイベントを通して、何か変化はありますか？

井手：変化というか、イベントのなかで話す機会が増えてくると「子どもの遊び場が欲しい」といったニーズがあることがわかってきました。また、以前から地域づくりに関心があり、ここでもやっていきたいという方や、南山がまちづくりをやっているということが決め手になって引っ越して来た人もいらっしゃるとか、まちづくりに関心のある方とつながることができました。

展望デッキをまちのシンボルに

川原：次はこのチラシ、展望デッキの活動についてお話を聞かせてください。



事務局 井手



緑化推進事業リーダー 和田

梁川：それは、私かな。木製の展望デッキは、5年ほど前に、奥畑谷戸公園にシンボルがほしいなと思って作りました。ボランティアのみなさんと一緒に手作りでしたが、駒沢女子大の榎本先生のご指導のおかげで、大きな展望デッキが完成しました。ただ、それ以降、手入れができておらずとても気になっていましたが、今年、エリマネ事業として、周辺の下草刈りやペンキ塗りなどが多くの方の協力を得てできたので嬉しいですね。今後も定期的に入手れして、末長く公園のシンボルとして残していきたいですね。なかなかの力作で、実際の作業に来られた方から「ここはいい!」と言っていました。

農業体験イベントの先に

川原：梨狩りや芋掘りは好評でしたか？

川原：農家でもいらっしゃる川島さんのご尽力ですね。

川島：自分で収穫をして食べられるから、楽しんでもらえていると思うよ。

川原：こうしたイベントへの参加者は増えてますか？決まった人だけですか？

井手：初めての方もいらっしゃいますが、リピーターは多いですね！

川島：この取り組みの延長線上には、自分で作って1年間楽しむ人も出てきてくれたらいいなと考えている。今は単発的に芋を掘るとか梨や梅をもぐとかだけど、種まきからやりたい人が楽しめる機会、場所をつくりたい。

そうしたことができる斜面地や公園の一角を、南山の計画には仕込んであるんだ。それからさらに、もう一歩やりたい人がいたら、地権者の人たちがこの区画整理後に農地も作る予定なので、そこで農園を始めることだってできるだろう。興味があるなら、イベントから体験農園、さらに農園経営へと進める機会も用意したいと思っているよ。

活動の拠点「奥畑谷戸公園事務所」への期待

川原：今日座談会をしている、奥畑谷戸公園事務所は、ワークショップで計画づくりをしたときにはエリマネの活動の拠点になることを想定していましたね。みなさん、ここをどう使っていきたいですか？



公園づくり支援事業リーダー 梁川

和田：みんながある程度ルールを守れば、自由に使えるような施設になってほしい。私は緑化事業の一環で、森の材料を使った染色とか、やりたいことはたくさんあるので、それが自由にできるような場所に早くなってくれたらいいなと思いますね。外に作業場もあり、できる環境は整ってますので。

井手：里山の恵みを活かした活動はもちろん、まちにはいろんな希望を持っている人がいると思うので、多くの人が気軽に行き来できるようにしてほしいな。自然が好きな人が集う場、料理や子育てを通じた交流の場、子どもと遊びに来られるような場として…。



奥畑谷戸公園事務所 設計 和久

梁川：素晴らしい建物を建ててもらった。山小屋的な雰囲気もいい。ここは奥畑谷戸公園の一角だから、一緒に下草刈りや樹木の伐採といった公園の緑の管理を通して、楽しむ場になれたらと思う。竹林もあって、会員の皆さんに声をかけてタケノコ掘りをして楽しむこともできる。梨とかジャガイモとか稲城には旬を感じる食材がいっぱい。旬のおいしさにふれて感性が磨かれると思うのです。

川原：山や畑の恵みに敏感になる！

梁川：そう。都心からこんな近い稲城で、すぐ、こういうことができるのは考えないと思うのですよね。食材だけではありません。10年以上にわたって、区画整理組合が保護活動に取り組んできた希少種もある。稲城市の鳥になっているチョウゲンボウ、オオタカなどもアピールしたい。ペレットストーブもある。そばに南山小学校もありますから、子どもたちが学校に行く前後に立ち寄って、勉強する場になってほしい。学校では学べないことを学びに来てほしい。

川原：子どもたちがふらっと立ち寄って、誰かがちょっと遠目で見守っているといいですね。

和久：この建物の設計・監理に携わり、紆余曲折ありましたが、おかげさまで、ようやく建物は完成しました。でも、まだ外構や家具はつくっている真っ最中。川島さんにご協力いただいて一年

半前に稲城の里山で伐採した木を製材し、今、ようやく乾燥したので、二月から椅子とかテーブルを作って配置していく予定です。外構の方も、和田さんはじめエリマネのみなさんに協力いただいて、仕込んでいただいている苗木を移植してきます。

川原：これだけ長い時間作り続けているのは珍しいですね。まさにこの場所も育てていくようです。

宇野：様々な活動拠点でありたいというのと同時に、公園の管理費を稼ぐためのインフラとして利用しない手はないと思うのですよ。税金を満遍なく施設の管理に均質に配分するのではなく、



蕪木理事

公園を楽しみ、この施設を利用する人にお金を落としてもらう場所として使わない手はない。

川原：確かに、税金を原資とする管理費だけでは、最低限のことしかできませんからね。私も、ここに関わらせて頂いていることの意味は大きく二つあって、一つは現代における里山ってどう考えていったらいいんだろうということ。もう一つはエリアマネジメントの組織というのが地域の中できちんと収入を得て、持続可能になるということ。こうしたことを考えていきたいと宇野さんや、野村不動産の当時の担当者の方から伺って、ぜひ関わってみたいと思ったのを思い出しました。

普通の公園ではできないことをしたい！

蕪木：計画段階では、自治会的な施設だとかエリマネの活動拠点として使うとかを考えてきたけれど、現在は公園管理事務所として位置づけられること



2月12日に開催した木質ペレットふれあいフェスタ



森理事長

なことをやりたいわけ。それをこれからどこまで実現できるか。行政と議論するには、こっちが企画力を持って提案していかないといけない。ここに住む人が管理責任を持たされるのは大変なことだけでも、こちらが責任をもたないと、より自由な使い方はできないというのが現実。先進事例はいろいろあるので出来ない話ではない。

川原：南山に住むお父さんやお母さんと、そういう想いを共有したいですね。

宇野：賛同してくれる仲間を増やしたい。

森：市に信頼していただけるような組織をつくらないとね。都市公園法には分区分園という考え方があって、例えば水田とか畑を作るとか、火を使っているとか、市が制度を使えばできるこ

う。市民コモンズ（共有財産）の場として位置づけたい。市長にも提案しているところですよ。

川原：種がいっぱい撒かれてる！ 一つのまにか次年度の企画会議になりましたね（笑）。

エリマネ活動の原点と今後の目標

梁川：そういう意味では、我々のこれからの活動は、新たな方をどのように活動に誘っていくかという、次のステップに進みたいですね。今年一年、色々企画を立ち上げてきっかけづくりができたし、そのリーダー役が何人も生まれて、エリマネ活動グループの初年度としては非常に良かったと思います。



座談会の様子

すなわちみんなでまちを守り育てる拠点の施設にしたいですね。

宇野：行政視点でリスクを未然に防ごうとする結果、制約の多いつまらない公園になる。それをどう打ち破るかがエリマネの大事な仕事だと思います。

川島：大人の人たちは緑があって綺麗になっていればそれでいいけど、子どもたちはそこで遊びたいわけよ。色々

とはいろいろある。

川原：今まさに奥畑谷戸公園をどうするかという議論されているんですよ。

小川：はい、みなさんが活動する場をどう生み出すかを区画整理事業組合として頑張ってきた。この取り組みと、住民の皆さんとの関係をつなぐのがエリマネの活動の一つなのかなと思う。イベントなどに参加してくれる人たちに、今こういう活動の場も考えているんですよと情報発信をしたいですね。

森：そう、まだ目指していることのほんの一部しかできていませんね。奥畑谷戸公園以外にも、西側の斜面緑地の一部をコミュニティ菜園として使うことも検討している。これは区画整理地の斜面緑地のひな壇部分の平場を菜園利用するもの。あるグループをつくり、そこに菜園の占有を認め、その代わり上下の斜面地の管理をしてくら

今後は、我々以外で担ってくれる人、ファンの中でも核になる人を、次年度の活動の中で見つけていくのが目標ですね。そこがうまくいくと、エリマネの活動がぐっと広がっていくと思います。

川原：梁川さんは、常に次の一手を考えておられますね。

梁川：仕事でもそういうことをやっているんで（笑）。イベントを企画する人は、結構大変じゃないですか。旗振るところに集まってくれる人の誰かが、次の旗振り役になったら心強い！

森：今年は、どういう活動に興味持って人が集まるかが未知数で、色々旗を上げている状態。そこから定着する活動や、人が根付いてくれば、まちが育ち成熟していくのだと思います。

宇野：逆に、会員の皆さんから「こんなことをやってみたい」というアイデアが投げかけられるぐらいになると嬉

しいですね！

川原：住んでいる人が自分のまちを育てる感覚が生まれるのがとても大事ですよ。その機会をつくりたいというのが、まさにエリマネがやっていること。

川島：エリマネの活動の意味といえば、知っておいてほしいことがある。実はこうしたエリマネ活動は、区画整理組合や地権者の人が様々な活動の場となる土地を提供してくれているという協力があって、初めて可能になっているんだ。このことがエリマネ活動の原点であり、最重要なんじゃないかと私は思っている。緑地事業もイベントもこの協力がなくて全然やりようがない。

川原：それは日頃の活動の中で話されているのですか？

川島：いや、押し付けがましくなるので言わないよ。でも、南山のまちづくりは、地権者の協力和新しく住む人との協力関係が大事で、それを支えるのがエリマネの活動だと思う。

こうしたことを、区画整理組合も理解してフォローしてくれている。こうした関係が大事。

みんなで作り上げていくまちづくりへ

宇野：僕からも一つ。さきほど、組合が保護活動に取り組んできたと言うのは、南山の開発に伴う環境アセスメントの一環であるのですが、これは、そこにあった自然をある一定規模守りましょうというルールなんですよ。そして、これを越えようとしているのがエリマネの活動だと思うんです。今あ

るものをそのままの形でただ保全することから、「暮らしの営みの中で育まれてきた自然環境をもう一度作ろうよ。」ということに取り組んでいる。緑化事業はまさにこれ。「暮らしながら作る」ということかな。奥畑谷戸公園の計画にも携わっていますが、ここでも「使いながら作る」と言っています。南山流で言えば、「与えられるまちから、みんなで作り上げていくまちづくりへ」かな。エリマネ活動を通して、こうした意識転換を目指したいですね。

新しく南山に住む人にとって必要な山、緑にしたい

川島：その考えは、里山についての郷愁的な誤解を乗り越えることにも通じるよ。里山っていうのはその地域で生活するために必要な山や緑のこと。だから別に薪を作るための山にしないでいい。一部は昔のまま残しておきたい。一部は今の生活する人にとっての新しい里山にするために、綺麗な花が咲いたり、良い匂いがしたりする木を植えたい、料理をするための木を植えたいとかさ、なんでもいいんだよ。自分たちの生活に使えるものにしよう！そうすれば「使えるのだから管理もしようか」となる。開発前の南山の緑は、少なくとも昭和30年以前の稲城の住民には必要な山ではあったけど、その後は薪や木材が不要になり、放置され荒れた状況だった。開発に反対という声もあったけど、こうしたことをわかってもらえるといいな。今後は、これから新しく南山に住む人にとって必要な



川島理事

山、緑にして、初めて里山再生なのよ。

宇野：ここにあるベレットストープ用に、「地元の木でベレットが作れたらいいね。」って狙ってますよ！

川原：みなさん、いろいろな思いを持ちながら、でも、根っここのところにつながる思いやアイデアを持って活動されているのがよくわかりました。今後、このまちに入ってくる方々にも、さりげなくこうしたことが伝わって、共感が得られたらいいですね。エリマネ南山の活動アーカイブグループがつくるこの冊子も、その橋渡しになれたらいいなと改めて思いました！本日はみなさんありがとうございました。

座談会は2017/01/17に開催



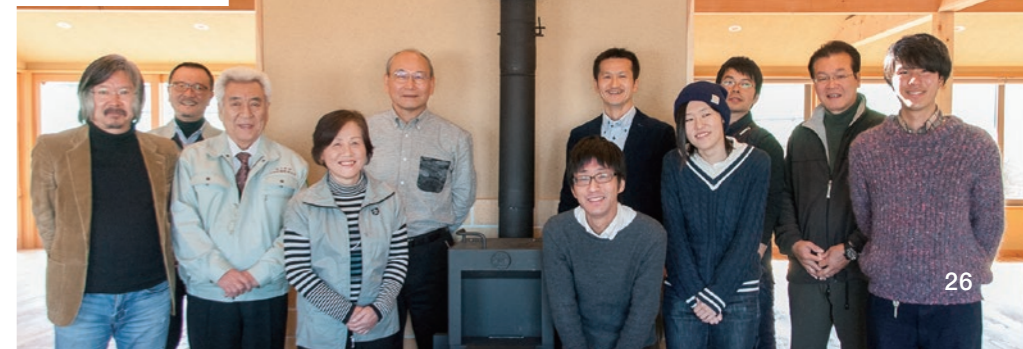
川原教授

活動アーカイブグループ

活動アーカイブグループはエリマネの活動の広報・記録などを担当。過去、現在、未来のまちづくりの想いをつなぎます。首都大学東京 都市環境学部 観光科学域 川原研究室の協力を得て、運営しています。

活動アーカイブグループメンバー：金子 純郎 井手 大 川原研究室：川原 晋教授、川端 南実希、永島 奨之、岡田 愛

座談会後の集合写真





里山の恵みを
味わい育む
地域の交流拠点

奥畑谷戸公園事務所
(仮称)

南山の暮らしを味わう家
奥畑谷戸公園事務所について

奥畑谷戸公園は「使いながら作る」をコンセプトに、この公園を使う人たちで話し合い、ともに手を動かし、自らが望む公園を自分たちの手で作っていく公園として、現在、計画が進められています。そんな公園の管理事務所として建てられたこの施設は、公園を利用する人や

みどりを守り育てる人たちの拠点です。里山の恵みを味わい、楽しみ、育み、分かちあうことができる「南山の暮らしを味わえる家」として、南山のまちづくりを話し合える「集いの場」として、エリアマネジメント南山が運営することを目標に取り組んでいきます。

自然の恵みを活かして暮らしている稲城の人たちの想いやアイデアを受け止め、里山活動や自然体験の拠点として、建物の内と外がひとつながりに感じられると同時に、ひとときものが息づく心地の良い環境づくりを目指しました。地元の農家さんのご協力を得て山から調達した雑木で、机や座卓、椅子を製作しました。床下や外構には調湿と土壌改善が期待できる稲城の竹と雑木の炭を敷設し、稲城砂と呼ばれる敷地内の砂を混ぜた土で、壁や天井を仕

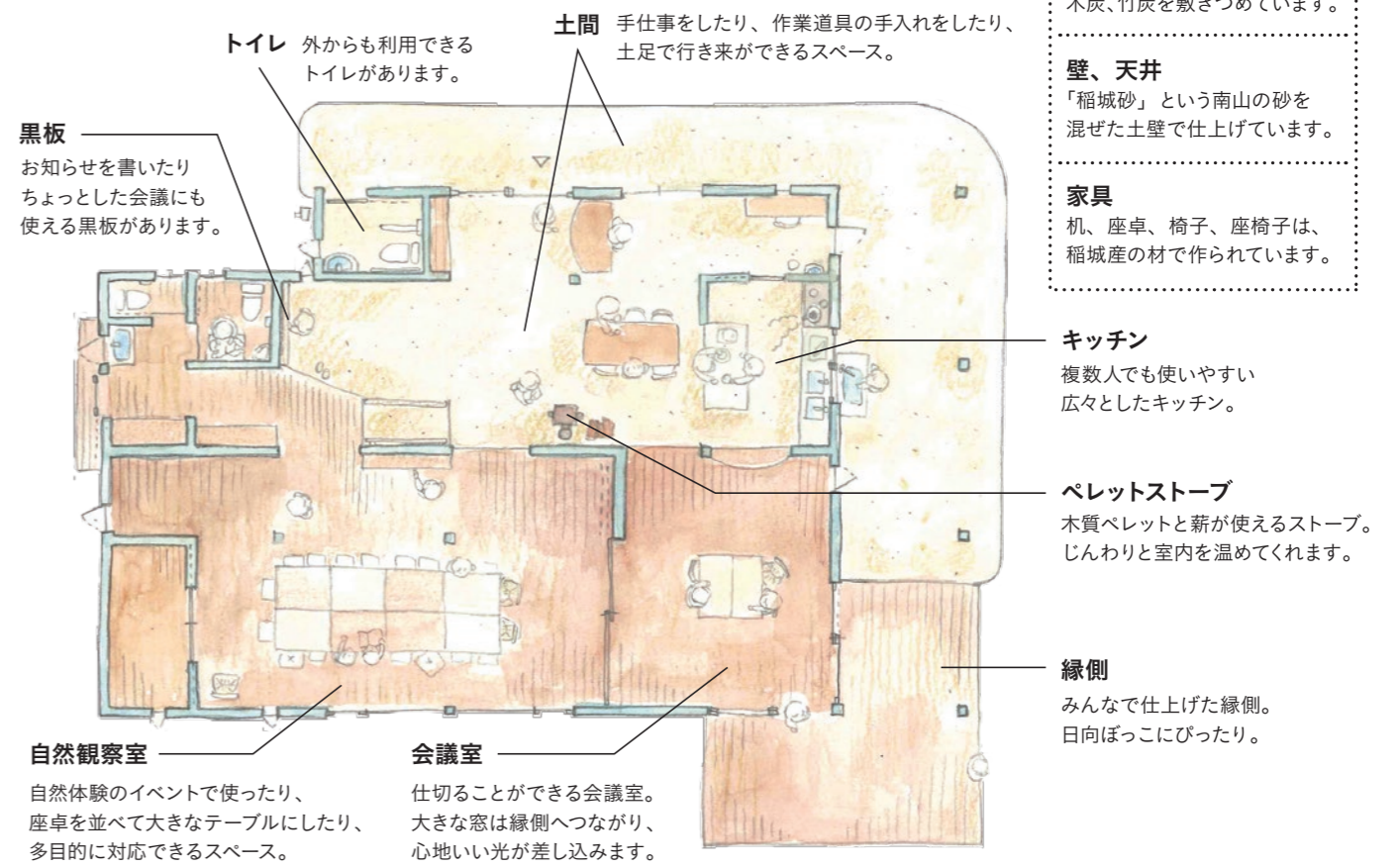
上げています。敷地全体の外構は、処分予定だった農地や個人宅の多様な樹木を引き取って移植しつつ、通気通水に配慮した地形整備と有機物を混合したアスファルト舗装によって、自然本来の健全な土壌環境を施しています。培われてきた資源と地元の方々の知恵をお借りしながら生み出されたこの場所が、残された里山と連携しながら、これからの多摩丘陵における里山づくりに波及してくれることを願っています。

設計に込めた思い

WAKUWORKS
一級建築士事務所
和久倫也



施設について



床下
調湿効果が期待できる稲城の木炭、竹炭を敷きつめています。

壁、天井
「稲城砂」という南山の砂を混ぜた土壁で仕上げています。

家具
机、座卓、椅子、座椅子は、稲城産の材で作られています。

施設ができるまで

実際に使う人たちの声を反映するためにワークショップを開いたり、ウッドデッキをみんなで仕上げたり、設計段階から施設に関わる機会を積極的につくりました。

設計
ワークショップ



こんな活動をしたい、こんな機能あったらいいな。模型や図面を見ながら設計を進めていきました。

開催日：2014年～2015年 数回開催
2015年1月17日 公開WS

企画・運営：首都大学東京 川原研究室

縁側の
仕上げ



施設のウッドデッキを住民参加のイベントとして仕上げました。今後の手入れもみんなで行っていきましょう。

開催日：2016年9月18日

外構
整備



施設の外構も自分たちの手を動かし整備しました。近隣の里山から樹木を移植して、施設を小さな森が囲みます。

開催日：2016年11月9日、10日
2017年2月24日、25日
2017年3月27日、28日

指導：杜の園芸（矢野智徳）

奥畑谷戸公園事務所の
運営について

当面の間、奥畑谷戸公園事務所はエリアマネジメント南山の活動拠点として、事業計画に則った活動の際に利用していくことになっています。※将来的には、稲城市の所管の施設として移管される予定です。



左上 梅もぎ体験 右上 緑側の仕上げ
 左中 苗木の移植 右下 焼き芋
 左下 展望デッキの整備



活動に参加するには

エリアマネジメント南山の活動への参加のしかた

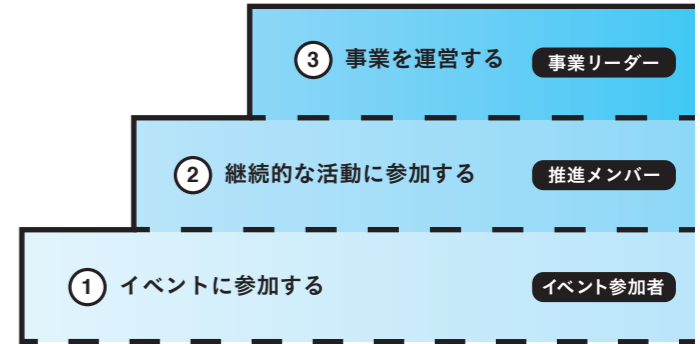
南山のまち育てを
一緒に楽しみませんか？

南山は、みんなで関わり育てていくまちです。
 エリアマネジメント南山の活動をとおして、
 暮らしを楽しみ、みどりと関わり、人と出会う。
 「自分たちのまちを自分の手で育て、楽しんでいく。」
 言葉にすると、ちょっと難しく感じるかもしれませんが。
 ここでは、エリアマネジメントの活動への
 参加の仕方をお伝えします。
 自分の興味や関わりたい度合いに合わせて、
 活動への参加のイメージを膨らませてみてください。

活動への参加のしかた

エリアマネジメント南山の活動への参加のしかたは、
 事業への関わり度合いによって変わっていきます。

- ① 農業体験などの単発のイベントに参加する
- ② 継続的な活動に参加する
- ③ 事業を運営する



1 イベントに参加する

STEP1

- ・ エリアマネジメント南山では、稲城の暮らしを楽しんだり、交流イベント、まちづくりに関するイベントを年間をとおして開催しています。エリアマネジメント南山の会員なら自由にご参加いただけます。
- ・ ウェブサイトにてその都度、参加を募集しています。



2 継続的な活動に参加する

STEP2

- ・ 単発のイベントのほかに、緑化推進事業のように継続的に活動している事業もあります。定期的な活動をとおして地域に関わることができ、交流の輪も広がります。
- ・ ウェブサイトにて参加メンバーを募集しています。



3 事業を運営する

STEP3

- ・ エリアマネジメント南山の事業運営に積極的に関わることもできます。月に一度、定例の会議にご参加いただき推進メンバーとともに事業を推進していきます。

詳細はウェブをご覧ください
<http://minamiyama.info/>

平成28年度活動成果

イベント 活動

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
土地活用事業			地権者向けの相談窓口の開設	→		
農業体験事業			ジャガイモ掘りと梅もぎ			梨もぎ体験
緑化推進事業	←		苗木の管理	→		
里山再生事業						
公園づくり支援事業						
コミュニティ形成事業		子育て情報交換会		まちびらきウェルカムパーティ		
公園事務所関連イベント						緑側の整備

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
土地活用事業	←		地権者向けの相談窓口の開設	→		
農業体験事業					焼き芋とどんぐり工作	
緑化推進事業				←	幼木のポット移植	→
里山再生事業	←		子どもの遊び場の整備	→		
公園づくり支援事業	ウッドデッキ周辺の下草刈り	ウッドデッキのペンキ塗り自然観察会			木質ベレットふれあいフェスタ	
コミュニティ形成事業			クリスマスコンサート			
公園事務所関連イベント				外構整備ワークショップ	→	

編集後記

事務局
井手 大

この冊子を編集するプロセスを経て、改めてエリアマネジメント南山の、多岐にわたる活動や、住民・組合・地権者・市・自治会との協力関係がなければ実現できないものであることを実感しました。そして、古くから土地を守ってきた人、新しく南山に住まわれる人、両者は同じこのまちの地権者であり、自分たちの財産であるこのまちが、良いまちになっていって欲しいという共通した思いがあることを、折々に強く感じています。そうした思いをつなぎ、応えていけるのがエリアマネジメントだと思っています。

これからも、南山のまちは少しずつできていきます。5年後、10年後、20年後に、どんな街で自分たちは暮らしていきたいのか、子どもたちにつないでいきたい地域はどんな地域なのか。ちょっと先のことも想像しながら、今、目の前で起こっている小さなことも大切にしながら、まちの一員としての気持ちを忘れずに、南山のまちづくりに関わっていきたくと思っています。まちかどで見かけたら、ぜひ気軽に声をかけてくださいね。

一般社団法人
エリアマネジメント南山
平成28年度 活動報告

発行：2017年3月29日
制作：一般社団法人エリアマネジメント南山
編集：エリアマネジメント南山事務局
協力：首都大学東京 都市環境学部 川原晋研究室（観光+まちづくり）
デザイン：井手 大
イラスト：浦和 さやか（WAKUWORKS）
写真：金子 純郎 宇野 健一 梁川 貴司 井手 大

一般社団法人エリアマネジメント南山
東京都稲城市百村 1462-1（南山東部土地区画整理組合内）
<http://minamiyama.info/>
info@minamiyama.info

エリアマネジメント南山 で検索

copyright © 2017 一般社団法人エリアマネジメント南山
冊子に掲載している文、写真、イラスト等、
無断での複製転写・転載を禁じます。